

令和 5 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	7 0	学校名	県立荃崎高等学校						課程	定時制	学校長名			岩崎 卓士			
教頭名	野村 淳吾				関 正貴							事務（室）長名		宮本 文			
教職員数	教諭	3 6	養護教諭	2	常勤講師	4	非常勤講師	1 0	実習教諭、実習講師、実習助手		1	事務職員	4	技術職員等	5	計	6 6
生徒数	小学科			1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計 クラス数			
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	普通（午前）科			3 2	3 3	2 3	3 4	1 9	1 5	3	1	7 7	8 3	8			
	普通（午後）科			1 5	8	1 5	1 2	8	6	3	2	4 1	2 8	4			
	普通（夜間）科			2	0	1	1	3	0	0	2	6	3	4			

2 目指す学校像

社会人として求められる基礎学力及び生活習慣を身に付けさせるとともに、自己の将来を見据えた職業観、勤労観に基づく進路実現を支援し、豊かな人間性を備えた社会人の育成に努める。

- 1 生徒・教職員、共に学び合う学校 2 生徒・教職員の信頼関係が構築された学校
 3 懇切丁寧な指導・きめ細かな指導を実践する学校 4 一人ひとりの個性に応じた多様な進路実現が図れる学校

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	基本的な生活習慣を身につけた人材 豊かな人間性を備えた人材 社会人としての教養と規範意識を身につけた人材
教育課程の編成及び実施に関する方	生徒一人一人の多様な学習ニーズに対応した学習活動とキャリア教育による生徒の進路実現

別紙様式 1 (高)

針 (カリキュラム・ポリシー)	・習熟度に応じた選択科目の設定（基礎基本を目指す科目、発展的な考察を深める科目） ・興味・関心に応じた選択科目の設定（活動的な科目） ・学んだことを発表したり、試したりする場の設定（文化祭による発表や展示、資格試験や検定試験）
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	思いやりを持ち、自他を尊重して信頼を築こうとする生徒 基本的生活習慣を身につけ、健康的な生活を心がける生徒 学校や社会の規範を守って日常生活ができる生徒 意欲的・主体的に学習や行事に取り組める生徒 自己実現に向けて日々努力する生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	基礎的・基本的な学習内容を十分に理解している生徒が少ない中で、学び直したいという意欲を持つ生徒が増加している。また、学力の差が大きい。	発展的学びに対する対応。 発達に凸凹のある生徒にもわかりやすい見通しの持てる授業展開。
進路指導	進路希望が大学・短大・専門学校進学から就職まで多様である。 特別な支援を要する生徒についての中学校からの引継ぎができるようになり、就労支援も進路指導部と保健厚生部で連携をとることができるようになってきた。	進学指導体制の構築。 面接や履歴書などで必要な文章力の向上。 進路未定のまま卒業していく生徒を減らす。
生徒指導	人間関係を築くのが得意でない生徒が多く、トラブルに発展することもある。 基本的生活習慣が身に付いていない、規範意識に欠ける	生徒の発達や理解にあわせた指導体制の構築。 豊かな人間関係づくりに対する支援。

別紙様式 1 (高)

	等の生徒は徐々に減りつつある。	
特別活動	ホームルーム活動・生徒会活動・部活動等への参加意欲は全体的には高くないが、自主的に活動する生徒の数が増加している。	学校行事や生徒会活動において、自主的に活動する場面を増やし自己肯定感を醸成する。
働き方改革	部活動での従事時間は少ないが、生徒や保護者対応・行事の準備などで超過勤務が増えてしまっている。	超過勤務が月当たり 80 時間を超える職員がいることと、45 時間を超える職員が少なからず存在すること。

5 中期的目標

1 個々の能力に応じた効果的な学習指導の実践 2 学びの場としての環境づくりと豊かな心の育成 3 進路指導の充実 4 特別活動の充実と活性化 5 開かれた学校づくりの推進 6 「茨城県県立学校の教育職員の業務量の適切な管理に関する規則」に基づく働き方改革の推進

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 基礎学力の向上を図り、生徒の授業満足度を高める	ア 授業を積極的に公開して学習指導の工夫・改善を図り、生徒が主体的に学習に取り組める授業を実践する。生徒の授業満足度を 4 点満点中、全教科 3.0 以上にする。 イ 少人数授業、T T 授業、基礎的・発展的な授業などの個の能力に応じた学習指導を実践し、BYOD による端末機器を効果的に活用しながら、生徒の学びの質を向上させる。生徒の授業満足度を 4 点満点中、全教科 3.0 以上にする。

別紙様式 1 (高)

	ウ 授業の中で自分の考えを書く時間を積極的に設け、文章力の向上を図る。 エ 外部試験を活用し、基礎学力の定着度合いを測定する。また、学習意欲の喚起を図る。基礎学力の向上（2回目の得点平均）＞（1回目の得点平均）
2 学びの場としての環境作りに取り組む	ア ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業を展開する。 イ スクールカウンセラーやキャンパスエイドの支援を得て、教育相談機能を充実させ、望ましい人間関係を構築しながら、安心して登校し学べる環境を醸成する。 ウ 通級指導の活用などにより、生徒の実生活や授業等での困り感の軽減を図る。 エ 図書館の整備により、生徒が読書や学習で利用しやすい環境を整える。
3 基本的な生活習慣の確立を図る	ア 登下校指導や日常の声かけをとおして、服装・頭髪等の身だしなみを正し、挨拶の励行に努める。 イ 遅刻・早退・欠席を少なくし、欠課時数の増加による転退学者数を減らす。
4 生命や人権を大切にする態度を育成する	ア お互いを思いやり、尊重する態度を育成し、生徒相互の豊かな人間関係を築く。 イ いじめは、「人間として絶対に許されない」という意識を持たせる。
5 進路指導の充実を図る	ア ロングホームルームや進路ガイダンスを充実させ、進路別見学会を実施し、進路情報の収集と提供により、進路意識の向上を図る。 イ 綿密な面談により、生徒や保護者の進路希望を把握し、進路指導の充実を図る。
6 特別活動の充実と活性化を図る	ア 生徒の自主性を育みながら、生徒会活動を活性化し、部活動の充実を図る。 イ ホームルーム活動を中心に、キャリアパスポートを活用して学びを振り返るとともに、将来への見通しを持たせる。
7 フレックススクールとしての特徴を生かした教育活動の向上・推進を行う	ア HPや印刷物等により、フレックススクールの教育活動内容を積極的に発信する。 イ 中学校訪問や学校説明会等広報の拡大を図り、保護者や地域社会との連携を推進する。

別紙様式 1（高）

8 教職員の資質能力の向上とともに働き方 改革により超過勤務時間の減少を図る	ア 校内研修を充実させるとともに、校外の研修に積極的に参加し、教職員としての スキルアップを図る。
---	--